平成２７年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立久慈小学校　教諭　須藤　貴憲

１　派遣期日　　平成２７年１２月９日（水）
２　研 修 先　　学校名　宮城県仙台市立七郷小学校
　　所在地　宮城県仙台市若林区荒井５３－２
　　http://www. sendai-c. ed. jp/~sichi-el/
３　研修内容

平成２５～２８年度　文部科学省指定　研究開発学校　中間公開研究会 新領域「防災安全科」－自助と共助，夢や希望を育む防災安全科の研究開発－

◎　東日本大震災と七郷小学校（震災を教訓として引き継ぐ）

平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災は未曾有の災害で，七郷小学校は未だに経験したことのない震度７の大きな揺れに襲われた。余震が続く状況下で全児童が校庭の避難場所に移動した。日頃の訓練が生かされ，すぐに保護者が続々と集まり，児童の引き渡しが始まった。上空では自衛隊のヘリコプターが，大津波警報発令の情報を伝えていた。その後，津波から逃れてきた人たちの車で校庭が埋め尽くされた。津波は学区にある有料道路が壁となり，学校までは到達しなかったが，学区の一部は浸水し，地域に甚大な被害をもたらした。児童の引き渡しが完了したのは，地震発生から２日後だった。

震災直後，七郷小学校は大規模な避難所となった。体育館からすべての教室まで避難者であふれかえった。ライフラインが止まり，余震が続く中，地域の人々は共に助け合い，全国からの支援物資やボランティアの献身的な活動に支えられながら懸命に生き抜いた。

このような震災の体験を風化させず，教訓として引き継いでいくことは，被災地にある学校の使命と捉えた。

◎　研究開発学校制度と防災安全科

⑴　研究開発学校制度

研究開発学校制度とは，教育上の課題や急激な社会の変化・発展に伴って生じた学校教育の多様な要請に対応するため，現行の学習指導要領の基準によらない新しい教育課程や指導方法を開発する制度。

⑵　七郷小学校の研究開発

七郷小学校は仙台市教育委員会の推薦によって研究開発学校制度に申請し，平成２５年度から４年間，文部科学省の指定を受けた。

東日本大震災の教訓や体験を基に，防災教育を中心とした安全教育を独立した領域として創設し，児童が生涯にわたって自助と共助の意識をもって行動していく防災対応力や，危険を予測し回避する力，安全な社会づくりに貢献する心等を育む教育課程の研究開発に取り組んでいる。

⑶　日本初！防災安全科の創設（「ＹＵＭＥＢＯＵ」…夢を育む防災安全）

教育課程の特例により，全学年に新領域「防災安全科」を創設した。カリキュラムの中心に防災安全科を位置付け，各教科や道徳，総合的な学習の時間，学校行事などと関連を図りながら，一般化と自校化を目指した防災安全科を確立する。

①　一般化を目指した防災スタンダード：目標や内容の体系化と指導方法の工夫
②　自校化を目指した七郷小オリジナル：外部と連携した地域素材の教材化

⑷　どうして防災安全科か

震災を学校で体験した児童の割合は年々減少し，いずれ全員が卒業するとともに，来年度には震災を体験していない児童が入学してくる。震災の教訓や体験を風化させず，今後の教育活動の中で継承していくためには，児童の直接体験に拠らない，より汎用性・継続可能性のある防災教育の学習プログラムや具体的な指導法を確立していく必要がある。そのために，まず，教育活動全般を防災の観点から広く見直し，関連付けて，新たな視点で再構築するとともに，教科，領域の内容の一部を統合した新領域「防災安全科」を全学年に創設することにした。

⑸　防災安全科について

・　全学年ともに２週に１時間程度，年２０時間学習する。時間割には，「防災」また

は「ぼうさい」と書かれている。防災安全科を行わない週は，他の教科の学習を行う。

・　防災安全科が始まっても，全体の授業時間は増えない。防災安全科の２０時間を上乗せするのではなく，今の授業時間の中で行う。

・　防災安全科の授業時間は，他の教科などから２０時間を持ってくる。防災に関連する内容を含んだ教科の内容の一部を防災安全科に移行する。教科は，主に，生活科，総合的な学習の時間，社会，理科，保健，家庭，学級活動，道徳で，学年によって移行する教科の時数の違いが多少ある。

・　教科書はないが，仙台市新防災教育副読本を使用し，補助資料やワークシートなどを使って学習する。

・　防災安全科を通して目指すことは，将来，防災や復興を担っていく人間を育てていくことなので，創設する防災安全科においても，

①　単に防災の知識や技能の習得のみで終わらせない。

②　大人やたくさんの地域の人たちに見守られている安心感を与える。

③　備えるから，いざというときも安心だという思いをもたせる。

④　自分たちも防災で役に立っているという自己肯定感をもたせる。

これらのことに留意して，児童の夢を育むことを目指し，以下のような変化を求めていく。

《児童が変わる》

自助と共助が身に付いた，考えて行動するようになった。

《教員が変わる》

教員の意識が変わった，授業の質が高まった。

《学校が変わる》

落ち着きのある，安心・安全な学校になった。

⑹　公開授業を参観して

全学年の授業を参観した。例えば，３年生は「自分の家の非常食を考える」，５年生は「災害時，目の前にいるけが人のためにできることを考える」を学習課題として，活動していた。与えられた課題に対して，議論を通じて答えを探究するアクティブ・ラーニングを意識した授業が多かった。３年生の「自分の家の非常食を考える」では，まず個人で自力解決（非常食に適している食品１種類とその理由を考える。）して，その後，集団解決（互いの考えを出し合い，共有する。…グループ→全体）していた。授業の最後はゲストティーチャーの話を聞き，みんなで考えた答えの善し悪しを確認したり，別の視点で考えた答えを知ったりして理解を深めていた。５年生の「災害時，目の前にいるけが人のためにできることを考える」では，自分なりの考えをもってから代表児童のロールプレイングを見て，自分の考えとの共通点や相違点を見つけ，それを基にさらに考えを深め，友だちと考えを練り上げ，解決方法を見い出していた。どの学年も，知識だけではなく，思考力や表現力，主体的に学ぶ態度などが身に付いており，課題の解決に向けて深く学べていた。

↑　３年生の授業の様子

４　感想

「防災安全科」の創設，実践により，自助と共助の力を養い，災害に不安を抱くのではなく，未来に向かって希望をもちたくましく生きようとする児童の育成を目指し，チームで取り組んでいる七郷小学校の取り組みは，とてもすばらしかった。特に，実践にあたり，研究開発校だから可能とか被災地だけのプログラムであるなどの声が上がるようでは広がりも継続もあり得ないとの考えのもとで一般化を目指し，その上で震災の教訓や体験を生かしたり地域に起こり得る災害を扱ったりしながら自校化を図る取り組みは，震災を経験した学校として大いに参考となった。

↑　５年生の授業の様子